

いにしへの酒蔵



クッキングピッグを組み立て、一から制作。製作期間は、実に4カ月。バーナーであぶるという手の込みようである。



「手作り」のケーブルカー



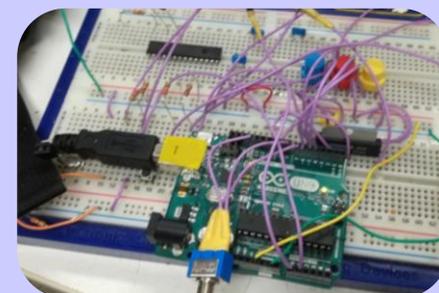
車両や線路等、走行装置以外は全て我々の手によって自作した。このモジュール最大の難工事であった。半自動制御装置を搭載、モータによる走行を可能とする。

古都百年物語

～ケーブルがつなぐ百年～

舞台は2か所
奈良県・生駒市
京都市・伏見区

“高専”らしく



写真は、ケーブルカーのモータ制御装置である。我々は、これに限らず高専で学んだ技術を全力で活かしたモジュールづくりを行っている。

伝統の工法「家」



機械研究会伝統のフルスクラッチによる建物づくり。低コスト、ハイクオリティを実現。

古都百年物語

～ケーブルがつなぐ百年～

制作記



まず初めに・・・
このモジュールの舞台は？



奈良県・生駒市



京都市・伏見区

酒蔵

<https://encrypted-tbn0.gstatic.com/images?q=tbn:AND9GcRAEKqF76r7niSdwXvNolcifr7oMKnKHDZXXaJahaR2Bc5IJVWMFg>

なぜ生駒と伏見に？

部員の大半が、奈良県と京都府に住んでおり、よく知っている場所を作ることで、高い再限度を実現したり、その場所の”空気感“を出すことが出来ると考えたから。そして簡単に調査できるから（笑）。

見どころを教えてください！

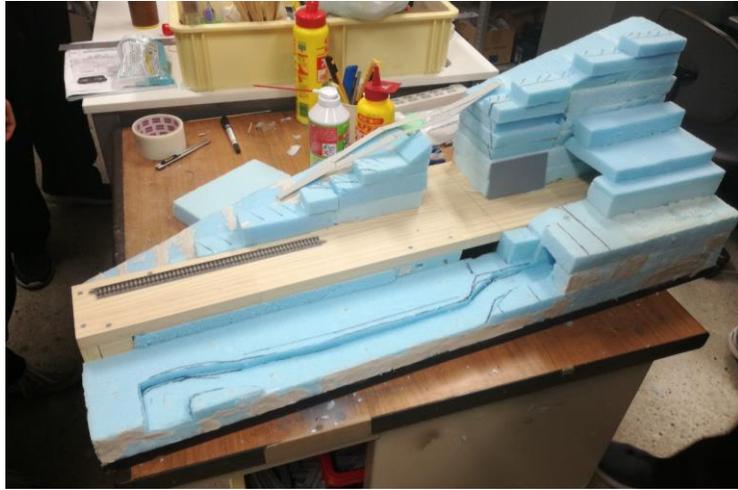
もちろんケーブルカーと、酒蔵の前を航行する十石舟です！

ケーブルカーは、高専で学んだ技術を最大限活かして、できるだけ本物と同じ動かし方をしようと、各種数値計算を行いました。また酒蔵も、ガスバーナーであぶるといった奈良高専にしか出来ない手の込みようです。どうぞ、近くでご覧ください！

高専を知らない人のために・・・

高専とは、高等専門学校の略で、工業や商業、商船などあわせて全国に57校の国立高専がある。5年制の一貫した専門教育が受けられる。私たち奈良高専には、機械、電気、電子制御、情報、物質化学の5つの専門学科がある。

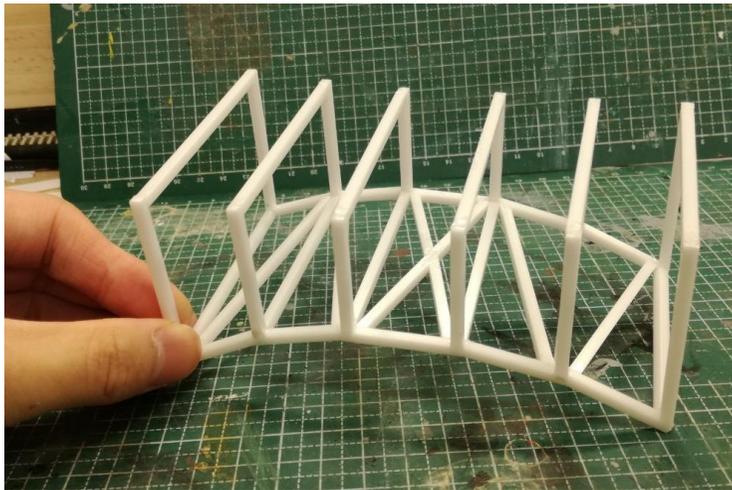
モジュールの成長



①木材から土台を作り、スタイロフォーム(断熱材)を貼り付ける。



②石膏で表面を固め、テクスチャーペイントで着色。ケーブルの線路も登場！



③ケーブルが通る橋もこうして手作りしていく。



④組み立てて、塗装し、モジュールに組み込む。



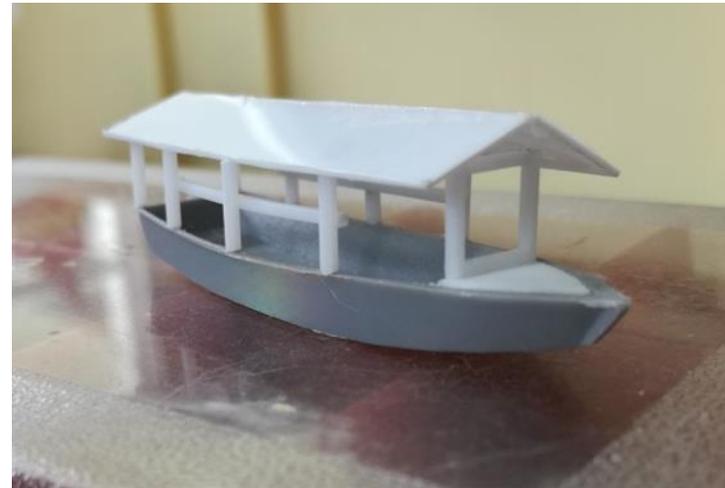
⑤クッキングピックを接着して、大まかな形を作る。



⑥ガスバーナーであぶる。家にここまで手間をかけるのが奈良高専。



⑦モジュールにおいてみる。後述の舟とのコラボ。かなり雰囲気が出ている。



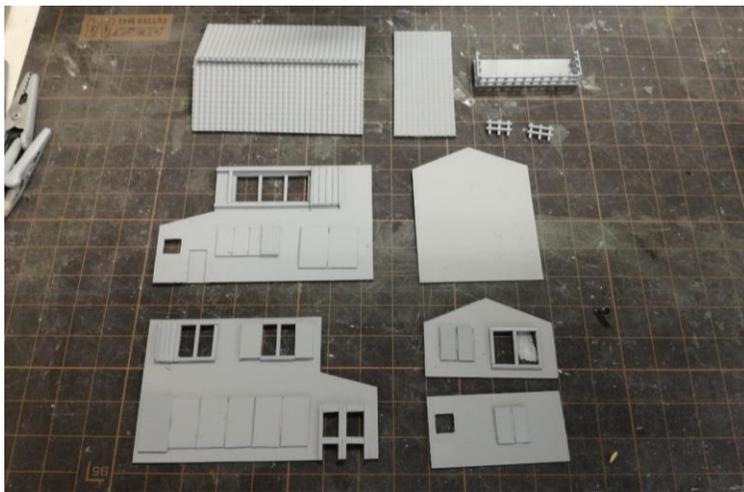
⑧舟もキットと組み合わせ、自作。



⑨地形を着色していき、細かい建物等も作る。ケーブルカーにもご注目。



⑩紅葉は、乾燥植物に着色された砂を振りかけて、再現している。



⑪家は、設計図を描き、それをもとにプラ板を切り出していく



⑫それを組み立てる。展示する頃にはもっと美しく...



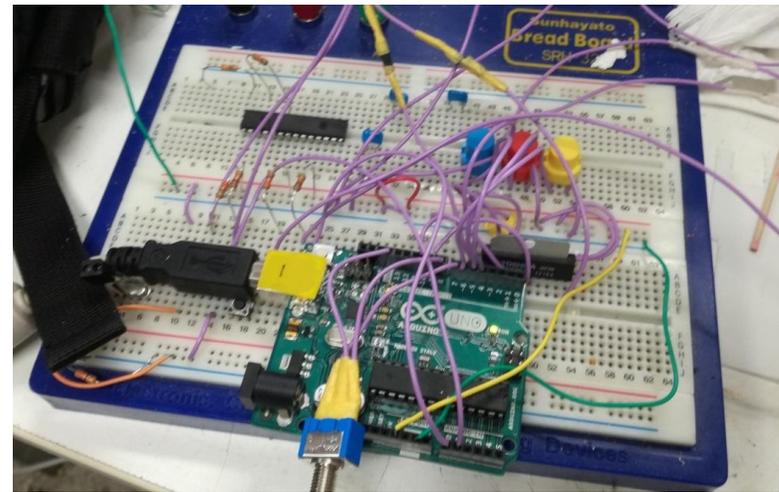
⑬ケーブルカーの線路も3Dプリンタで設計し、自作。線路を取り付けるのが大変だった。



⑭このように、ケーブルカーを何度も何度も手で試運転を行う。その回数なんと300回！



⑮ケーブル用の架線も並行して作ります。



⑯この電子回路は、大手家電メーカーに36年勤続された本校教授の監修。



⑰発送約1週間前の姿。おおよそ形になってきた。



⑱茶店の休憩スペースは、半紙を敷き布に見立てている。



⑲よく見ると、ブルーシートを敷いて紅葉狩りをしている人も。



⑳人形を配置していく。雰囲気とリアルさのバランスを大切に。